緒　言

平成 22 年度は活断層・地震研究センターの発足から 2 年目の年であると同時に，また産業技術総合研究所の第 3 期中期計画（5 カ年）の初年度でもありました．当センターの第 3 期中期計画は,「活断層評価及び災害予測手法の高度化」と「海溝型地震及び巨大津波の予測手法の高度化」という 2 つのテーマを掲げ，その中で以下のような具体的な調査研究を実施することとしています．

・陸域及び沿岸海域の 25 以上の活断層について古地震学的調査を実施し，活動履歴を明らかにすると共に，活断層データベースを通じて情報発信を行う．
・糸魚川－静岡構造線の地震発生時期と規模を予測するため，物理モデルの原型を提示する．
・活断層運動による地盤変形に関する調査手法とシミュレーション手法を提案し，地盤変形評価図を作成する．
・東南海・南海地震を対象とした地下水等総合観測施設を整備し，既存データとの統合解析を進め，駿河・南海トラフで発生する東海・東南海・南海地震の短期予測システムを構築する．
・巨大津波による災害を軽減するため，日本海溝及び南海トラフに面した沿岸域の地形・地質調査に基づいて, 過去数千年間の巨大津波の発生履歴を精度良く明らかにし, 津波の規模を解明する．宮城県については，津波浸水履歴図を公表する．

それぞれ 5 年後には社会に役立つ成果が残せるようスタッフ一同奮闘していく所存です．よろしくお願いいたします．

さて,『活断層・古地震研究報告』第 10 号は，主に 2009 年度に進めた調査研究の報告となります．外部資金による研究としては，文部科学省からの委託で実施の活断層の追加・補完調査，沿岸海域における活断層調査，重点的調査観測の成果として，三峠・京都西山断層帯，菊川断層帯，西山断層帯, 雲仙断層群の調査結果, また宮城･福島沖で西暦 869 年に発生した貞観地震の津波発生のシミュレーション結果について報告しています．福島県でのジオスライサー調査，綾瀬川断層での地中レーダー探査，糸魚川－静岡構造線での応力測定は産総研の運営交付金による成果です．

本報告の内容や，今後の産総研の活断層・古地震を中心にした地震に関する調査・研究の公表の方法について, 読者の皆様の忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます．最後になりましたが, 平成 21 年度の活断層・古地震の調査研究に際して，関係自治体，教育委員会，地元自治会，土地所有者，諸官公庁の皆様に深いご理解とご協力を賜りました．篤くお礼申し上げます．

平成 22 年 10 月 29 日

活断層・地震研究センター　センター長　岡村行信
同　副センター長　桑原保人